広報みしま

2021
2
February
No. 336

力を合わせ サイノカミ

サイノカミを立てる川井地区の皆さん

良い年願い サイノカミ

小正月の年中行事「サイノカミ」は1月15日、各地区で一斉に行われました。サイノカミには、家内安全、五穀豊穣、無病息災など一年の無事を願う厄払いの意味があります。住民が力を合わせてサイノカミを作り、思いを込めて火を燃やす行事は、欠かすことのできない町の小正月行事として今でも受け継がれており、平成20年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

どの地区でも少子高齢化による人手不足の中、先人から受け継いできた文化を絶やさず、継承しようとする地区の方々の熱い想いにより、今年は11地区、計18箇所で行われました。

「サイノカミ」実施地区
▶宮下▶桑原▶大登▶川井▶桧原▶滝谷
▶大谷（鳥海・中際・本村の3ヵ所）▶浅岐▶名入▶滝原
▶西方（隣組 3組、4組、7組、8・9組合同、10組、11組）

宮下地区

文・写真　町民記者
小島　純さん

宮下地区のサイノカミは三島神社の境内で行われました。11日に地区住民と地区の小学生が参加して作り上げたサイノカミに、午後6時30分に点火されました。勢いよく燃え上がった火は、夜空を焦がし、参加した住民の皆さんは、餅やスルメを焼いたり、炎を見つめ、今年一年の無病息災と平穏無事を祈りました。

川井地区

文・写真　町民記者
角田　伊一さん

川井地区のサイノカミはコロナ禍の中で開催の有無を検討した結果、規模を縮小し実施しました。マスクの着用など感染対策を整えて神木を迎え、燃え草の巻き付け作業などを粛々と実施しました。完成したサイノカミは例年より小さ目でしたが、出来栄えはかってないほど素晴らしく、燃やすのが勿体ないなどの声も聞かれました。夜にはコロナ退散や悪霊退散を願い、今年の豊穣と家内安全を燃え盛る御神火に祈りました。

桧原地区

文・写真　町民記者
佐々木　邦雄さん

桧原地区のサイノカミは春日神社で行われました。還暦を迎えられた片山慎一郎さんよりご提供いただいた、約12mの御神木が搬出され、立派なサイノカミが出来上がりました。午後7時に区長と厄年の方より点火され、オンペに火が点くと大きな歓声が上がりました。餅やスルメを焼きながら、新型コロナウイルスの終息と今年一年の無病息災、五穀豊穣を願いながら伝統の小正月の行事を楽しんでいました。

滝谷地区

文・写真　町民記者
目黒　民一さん

滝谷地区のサイノカミは1月10日に歳祝の方々を中心に地区住民総出で製作に取り掛かり、お昼前には今年の恵方である南南東を向いた立派なサイノカミが完成しました。

15日午後7時、若林新一さん宅で採火された松明を歳祝の方々が運んで点火されました。サイノカミの周りを回り、その後胴上げをして厄を払う「ドウヅキ」が行われ、冬の寒空へ燃え上がる御神火を見つめながら今年一年の平穏無事と疫病終息を願いました。

滝原地区

文・写真　町民記者
佐久間　絹江さん

今年は例年より少し早い1月10日にサイノカミが立てられました。水田の無い滝原地区では、秋に刈り取った茅（かや）を御神木に巻き付けて作りあげます。コロナ禍や各家庭の不幸が重なり、例年より規模を小さくしての実施となりましたが、今までの災いを吹き飛ばすかのように勢いよく燃え上がるサイノカミに、訪れた皆さんは五穀豊穣や無病息災、新型コロナウイルスの終息と一年間の家内安全を願っていました。

サイノカミの他にも小正月の伝統行事が行われました

間方地区（初田植え）（団子さし）

文・写真　町民記者
菅家　壽一さん

1月15日の朝、小正月の行事「田植え」と「団子さし」を行いました。「田植え」は、昨年に取れた米の「籾殻」を敷いて田んぼに見立て、米の親の「藁」と、お正月飾りの「北五葉松」で行います。お米が豊かに稔り、今年も元気に田んぼに行けるようお祈りしました。団子さしは、今年も全てのものがタワワに稔るようにと沢山の団子をさしました。コロナが終息し元気に過ごせますようにとお地蔵様と神社にお供えしました。

桧原地区（鳥追い）

文・写真　町民記者
佐々木　邦雄さん

1月14日、地区の伝統行事「鳥追い」が行われました。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、他の地区からの参加と町外からの見学者なしで縮小して行われました。鈴木隆一区長のあいさつの後、子どもたちは旗を持ちながら害鳥を追い払う「鳥追い歌」を合唱しながら、地区の上から下まで歩きました。地区内の子どもの数は減りましたが、約200年前から続くとされる、小正月の伝統行事を受け継いでいます。

三島町次世代の議会

―私たちが創る三島町の未来―

三島町次世代の議会は1月28日、役場の議場において行われ、三島中3年生5名が三島町次世代の議員として議会に出席しました。

この議会は、町政に対する質問・答弁を通して議会や政治の仕組みについて体験的に学習し、町の将来を担う中学生が、町の施策やまちづくりへの関心を深め、皆さんの意見や提言を今後の町政運営の参考とするため実施されました。

中学生は議長と議員に分かれ、町議会の一般質問と同じ形式で、町政に対する質問や町の将来に対する提案などを行いました。

三島町次世代の議会議員の皆さん（後列左から）菅家大貴議員、五十嵐望議員、（前列左から）星明音里議員、二瓶教香議長、飯塚真林議員

議長を務めた二瓶教香さん

三島町次世代の議会議員

職　名	氏　名	地区	質問事項等
議　長	二瓶　教香	西方	
1 番議員	星　明音里	西方	質問　美坂高原の活用について ～フラワーパーク等での集客について～
2 番議員	菅家　大貴	川井	質問　三島町空き家バンク、ワーク・ラボの活用について 議事録署名人
3 番議員	飯塚　真林	西方	質問　森の校舎「カタクリ」の有効活用について 議事録署名人
5 番議員	五十嵐　望	大谷	質問　町防災対策について

問　美坂高原の活用、フラワーパーク等での集客について

星 明音里議員

昔、三島町では美坂高原でお祭りを行っていたそうですが、今では美坂高原の名前を聞くことさえ少なくなってしまいました。フラワーパーク等で集客できるようにするという考えがあると聞いていますが、見込むことのできる成果と美坂高原活用の計画がどの程度進んでいるのか伺います。

答　各ゾーンに区分けし、有効活用を検討

美坂高原については、平成28年度に定めた活用方針に基づき、観光交流ゾーン（フラワーパークエリア・イベントエリア・キャンプサイトエリア）と農地等利用ゾーンに区分し、公園型の花の名所として維持管理や設備投資費用を抑制し、有効活用の方策を検討している状況です。

ひまわりやコスモス等を播種し、多くの皆様にお越しいただくことで、町内に活気を生み地域振興に繋げることを成果と考えております。

次に、美坂高原活用の計画については、イベントエリアでは音楽イベントや星空ヨガ教室を開催し好評を得ました。キャンプサイトエリアは、新型コロナウイルスの影響により、ソーシャルディスタンスのとれたキャンプ等は需要が増加しており、将来的に優良なキャンプスペースとして活用していきたいと考えています。

農地等利用ゾーンでは、桐やエゴマの栽培や編み組み細工の原材料となる山ぶどうの主要な栽培地として取り組み始め、地域資源の再生に繋げていきたいと考えています。

問　三島町空き家バンク、ワーク・ラボの活用について

菅家大貴議員

三島にはきれいな自然がたくさんあります。しかし、その中で空き家が多くあると、町の景観が悪くなってしまいます。町では空き家バンクを登録したりワーク・ラボとしての活用を図ったりしていますが、認知度が低く十分に機能していないと思われます。この現状を町として、どのようにとらえているかお伺いします。

また、空き家を宿泊施設やカフェにすると、人が集まりやすくなると思います。空き家を有効に活用するための町としての考えをお伺いします。

答　空き家所有者へ啓蒙し、利活用を促進

現在、町内に205軒の空き家を確認しておりますが、利活用可能な物件は、空き家バンクに登録されている12軒のみとなります。賃貸や売却等で利活用したいと考えている方も多くおりますが、家財の整理や相続手続きの未処理等の理由により利活用が進まない現状です。

認知度が低いということですが、空き家の所有者に向けて空き家に関する啓蒙チラシやアンケート調査により空き家の利活用を促進できるよう周知に努めています。空き家バンク利用者は、今年度11名の方が申し込みをし、2名の方の入居が決まりました。

宿泊施設やカフェへの活用については、改修には多額の費用と労力がかかるため、町で補助制度を設け、これまで61件の利用がありました。今年度より「三島町空き家利活用事業」にも取り組んでおり、費用負担が利活用の進まない一因と考え、初期投資の負担を抑制し移住定住につなげることを目指しています。

問　森の校舎「カタクリ」の有効活用について

飯塚真林議員

3月いっぱいでカタクリが閉められるということを耳にしました。カタクリにもっと魅力があれば、多くの人が訪れると思います。また、以前、カタクリに合宿で泊まりに来ている人の中に、プールを目当てに来た人がいました。

そこで、町として今後カタクリのプールを直す計画はあるのか、町として今後カタクリに魅力をもたせ、どのように運営していくのかをお伺いします。

答　地域振興の拠点となる協議を進める

三島町生涯学習センター「森の校舎カタクリ」の設立に至る経緯と現状についてご説明いたします。平成7年に宮下・西方と2校ずつあった小・中学校がそれぞれ統合され、三島小学校、中学校となりました。その後、旧西方小学校の施設等の有効活用が検討され、生涯学習を推進する宿泊体験型の拠点施設として整備し、平成10年4月より運営しています。地区の方々により「西方カタクリ会」が結成され、運営してきましたが、高齢化もあり受託の継続が困難になってきています。

今後は、これまでの運営方法等を精査し、西方地区の地域振興の拠点として存在できるよう、地区役員の皆さんと協議を進めていきます。

また、カタクリプールの改修については、老朽化による修理には莫大な費用がかかり、現在の町民プールとして活用している三島小のプールについても老朽化が進み、近年中に大規模な改修が必要とされており、カタクリのプール改修は難しいと考えています。

問　町防災対策について

五十嵐 望議員

東日本大震災などの自然災害はいつ来るかまったくわかりません。避難所に避難するときに自分よりも小さい子供や体の不自由な方などの手助けになりたいと思っています。町としてそのような有事の際に、中学生にどのような役割を期待しているかお伺いします。

また、ニュースでコロナ禍における避難所での過ごし方に苦労していることを知りました。避難所は人が密集した状況での集団生活となることが予想されます。

そこで、新型コロナウイルス感染症拡大防止下における、避難所での注意事項についての町としての考えを併せてお伺いします。

答　まずは自分の命を守ること

子供や体の不自由な方の手助けをしたいと思う気持ちに、敬意と感謝を申し上げます。大変、心強く感じました。

「災害時に中学生にどのような役割を期待しているか」についてですが、まず大事なことは、自分の命を守るということです。これを「自助」といいます。合言葉として、「逃げろ。それから、助けろ」であります。皆さんの命は、三島町の将来を背負っていく「町の宝」です。もし可能ならば、近所の子供やお年寄り、体の不自由な方に声掛けをして、避難所に一緒に避難してください。

また、コロナ禍での避難所では、密集を避けるため施設のスペースを最大限活用し、地区の集会所に避難所を限定せず、町民センターや生涯学習センターなどの公共施設を使用してまいります。

※三島町次世代の議会の模様は、3月1日から3月31日までみしまテレビで放映されます。

小松順太郎さんによる展示解説会の様子

三島町の縄文時代を知る

「三島の縄文展」を開催

11月14日から12月6日まで、交流センター山びこにおいて「三島の縄文展」が開催されました。町内で発掘された縄文時代の8つの遺跡から出土した約200点の遺物の展示の他、国指定重要文化財「荒屋敷遺跡出土品」の保存修理についてもパネルで紹介されました。11月23日には小松順太郎さん（西方）による展示解説会が行われ、来場者が熱心に聞き入っていました。

今年一年の無火災を祈願

町消防団出初式

町消防団出初式は1月6日に行われました。例年は保育所の子どもたちで結成した幼年防火クラブが参加して宮下地区をパレードしていましたが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため、三島神社への参拝のみを行いました。矢澤町長と消防団本部幹部、各班長が参加し、消防の心得を再確認し、今年一年の無火災を祈願しました。

今年一年間の防火・防災を祈願しました

町関係者や議会議員が参加した内覧会

三島町教員宿舎の内覧会を実施

単身用6戸、世帯用2戸を改修

教員宿舎内覧会は、1月12日に行われました。今回の改修では、2階住戸の改修が実施され、エアコンやこれまでは共用だった浴室が各部屋に設けられました。また、会津桐の振興を目的に「桐すのこベッド」が整備されています。入居は教職員等を対象に3月からを予定しており、先生からは「住むのが楽しみです」との声が聞かれました。

町民記者通信

最高に良い1年になりますように

文・写真　小島　純さん（宮下）

新型コロナウイルスに明け暮れた令和2年を振り返りながら、令和3年は明るく良い年になるようにと、三島神社で初詣を地区住民が行いました。地区の有志の方々の協力を得て準備された今年の初詣は、新型コロナウイルス感染防止のためお神酒は提供されませんでしたが、参拝を終えた方々にはお護符として白飴が配られました。例年よりは参拝者の数が少なく感じられましたが、マスク着用などの感染対策をしながら今年1年の無事を祈願していました。

作成・編集　地域おこし協力隊　三澤龍太（情報発信担当）

地域おこし協力隊コーナー Vol.13

様々な企画の原案をタブレットに書き留める深澤さん

深澤（ふかさわ）　涼（りょう）さん

観光協会配属
観光・イベント企画

今回は地域おこし協力隊に着任して7ヶ月が経過する、深澤さんの現在について取材してきました。三島町に住んでみて感じたことやこれまでの活動と、今後についてお話を伺ってきましたので、ご紹介いたします。

三島町には夏に移住し、初めての冬を経験している深澤さんですが、地元の秋田よりは暖かく感じると話していました。日本海に面する秋田市の冬と、山々に囲まれた三島町の冬では感じ方も違うそうです。

また、三島町での生活は初めて経験することが多く、発見にあふれており、日々の暮らしをとても楽しんでいると話していました。

これまでの活動では道の駅なみえ・道の駅 よつくら港・コラッセふくしまの3箇所で物販業務を経験し三島町のR活動に参加できたが、1月に予定していた物販事業3つは中止になり非常に残念と話す深澤さん。本来であれば田舎暮らし体験ツアー等の企画検討も希望していましたが、コロナ禍の影響で予定すらできない状況でした。観光事業が次々に中止になる中でも、深澤さんが普段心がけていることは、三島町での生活や観光協会での接客を楽しみ、そこでの経験や楽しさを訪れた方々にも伝えられるような接客をすることだそうです。

今後の目標については、10代から20代をより多く呼び込める要素を生み出したいと話す深澤さん。これまで来客対応をする中で、10代から20代の来客人数は片手で数えるほどしかいなかったそうです。三島町には魅力ある素材がたくさんあると感じることから、素材とツールを上手く駆使して若い世代とのパイプラインも創っていきたいと話していました。今後も広報を通して深澤さんの活動を皆さんにお届けしていきたいと思います。

マタギの学校事業で兎追いの時の風景

道の駅なみえでの物販対応の様子

マタギの学校にてトレッキング前に熊避けスプレーの説明を受けている様子

移住者インタビュー

三島町には様々な想いを持って移住された方がたくさんいらっしゃいます。インタビューを通して、空き家の利活用や移住定住のきっかけ、三島町の新たな魅力発見につながればと思い、移住者インタビューを連載します。

その13　田上（たがみ）　敏明（としあき）さん（34歳）

宮下地区在住

埼玉県久喜市出身。2006年から写真撮影で会津地域へと通い始め、2013年頃からは三島町に足繁く通い、ちょうど令和の始まりとともに三島町へ移住。現在は会社勤めのかたわら、趣味の写真撮影や山歩きを満喫されています

『未踏の地を求めて』

―三島町へ移住したいきさつ

奥会津との出会いは、小学生の頃、列車の旅で只見線に乗車して訪れたのが初めてだったと記憶しています。その後、夏の家族旅行で訪れた際には夜の金山町でホタルの乱舞を見て感動したことが今でも心に残っています。

十数年後、いわゆる「撮り鉄」として、国鉄時代の車両を求めて年に一度のペースで会津地域へ通うようになりました。そのうちに会津に撮り鉄仲間ができたことで、只見線沿線に通う頻度が増え、さらには隔週末に観光協会からんころん内で営業される「みやしたころろの会」のみなさんと出会ったことで、そばの日の度にからんころんへ立ち寄るようになりました。その時に食べたそばがとても美味しかったのです。そのおかげで、地元の方とも顔なじみになり、いつしか写真撮影というよりは、地元の方々というか親戚に会いに行く感覚で通うようになっていきました。

数年前から移住を検討し始め、三島町の他にも候補地はいくつかありましたが、自分は人見知りがあり、自分から人に話しかけるのが苦手な方なので、知らない土地で暮らすことには不安がありました。その点、三島町は通い続けただけあって地元の方々から話しかけてもらえる機会も増え、地元の行事に参加しても疎外感がなく、三島町へ移住する決心がつきました。移住の意思を固めてから実行に移すまでの期間が短かったこともあり、住居が決まるまでには問題もありましたが、今は落ち着き、ホッとしているところです。

―移住してよかったこと

移住前は写真撮影の都合で、夜は季節を問わず車中泊、渋滞を避けるため深夜・早朝の時間帯に帰宅することが多かったので、その必要がなくなったのは何よりよかったことです。また、仕事前や帰宅前に写真を撮りに行ったり、休日も思い立って飯豊連峰など健脚向けの山に登ったりする機会が圧倒的に増えました。そのほかにも、夏場にはアカショウビンやキビタキ、オオルリといった野鳥の美しいさえずりを自宅からでも聴くことができ、天気のよい夜は満点の星空に天の川が肉眼でもわかるような環境での生活は、都会では体験できないとても贅沢なことだと思っています。

以前の生活と比べ、不便さを感じることもありますが、特に大きな問題でもないので、それも含めて楽しく生活しています。気がかりなことといえば、冬の暮らしです。通っている頃に何度か大雪に遭遇することもありましたが、日常生活での雪となると勝手が違うので、雪に関する心配事が尽きません。逆にこれを乗り越えられたら、長く住み続けられる自信につながるのではないかと思っています。近くに温泉もあるので、寒い日は特に助かっています。

只見線の車両が新しくなり、写真を撮る頻度が減った分、山歩きの機会が大幅に増えました。昨年は地形図を見て、気になっていた町内にある28箇所の三角点巡りを実行しました。基本的には自宅から歩いて回り、三角点をすべて回るのに、およそ4ヶ月で200キロ近く歩きました。

「気になったことは自分の目で確かめたい」という思いがあり、今後も新たな発見を求めて、町内の未踏の地を歩き回ろうと思っています。もし長靴にリュック姿で歩きまわっている人を見かけたら、それはきっと自分だと思います。変わり者かもしれませんが怪しい者ではありませんので、どうか温かい目で見守ってやってください。

＊紙面の都合上、インタビューを抜粋して掲載しています。こちらで全文ご覧いただけます。
奥会津三島町での日々 https://okuaizumishimamachi.hatenablog.com/

空き家コラム

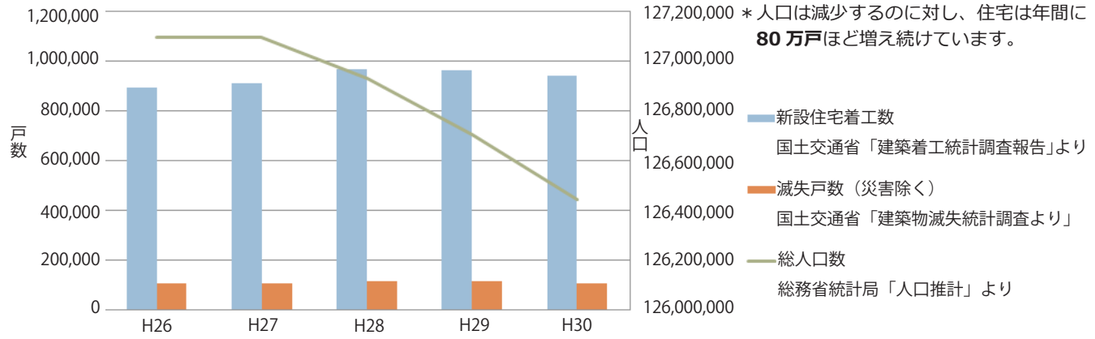
そもそも空き家問題とは？？

空き家に関する話題をこれまでも空き家コラムの中で掲載してきましたが、空き家問題とは何か、自分の生活とどう関わってくるのか等、改めてお伝えしていきます。そして、空き家の利活用を通して、所有者よし・入居者よし・地域よしの三方よしで三島よしを目指して、みなさんで空き家に向き合っていきましょう。

◇空き家問題の背景

日本では、戦後、住宅が圧倒的に不足していたため、「夢のマイホーム」という言葉に象徴されるように国民に持ち家を持ってもらう住宅施策が進められました。住宅が十分に整備された昨今でも、住宅投資は経済・景気に与える影響が大きいことから、新築を後押しする政策が続けらる一方で、日本の総人口が減少していることが、空き家増加の要因となりました。日本の住宅流通に占める新築の割合は**85%**と非常に高く、これは欧米とは真逆の数値です。そして、三島町を含む地方では、人口が加速度的に減少しているため、空き家増加もより一層深刻な問題となっています。「一世代一軒の家」を建てる現在の風潮では、早いか遅いかだけで、**誰もが実家や我が家を空き家にする可能性**があります。空き家を含め住宅は個人の所有物であり、個人の問題ですが、１軒の空き家が発生すると、第２、第３の空き家が生まれ、住民が減り、地域活力の低下を招く可能性があり、地域や町全体の問題になるとも言えます。

◇新築は増加するも滅失は進まない住宅状況



◇ 65歳を過ぎたら、住まいの今後について考え始めましょう

2018年の日本人の平均寿命は女性87.3歳、男性82.2歳、健康寿命は女性75歳、男性72歳で、**80歳以上**になると認知症の有病率が高くなると言われています。年とともに体力や精神力が衰えてくると、家財の片づけを含め、住まいの整理はますます負担となっていきます。また、空き家に関しては放置すればするほど、その後の解決策が狭まってしまう可能性があり、負（不）動産＝負の財産となることが考えられます。

「家を手放したのでは、先祖に申し訳ない」「親戚や近隣の方の目が気になり、手放すことができない」等の声を聞くことからも、実家の空き家、我が家の将来を考えることは、難しい現実に目を向けなくてはならず、つらいことかもしれません。しかしながら、実家や我が家の将来について、遅かれ早かれ多くの方が向き合わなくてはならないのが現実です。**「今が一番若い」**ということを念頭に、ぜひ、今のうちから住まいの終活を進めていただきたいと思います。

相続等で空き家所有者となる ⇒ 利活用等考えるが、何もしない・できない ⇒ そのまま放置 ⇒ 劣化して、住めなくなる ⇒ 売れない・活用できない不動産となる ⇒ **負動産**

町には空き家の改修・解体に関する補助制度があります。まずは、お気軽にお問い合わせください。

地域政策課　地方創生推進係　☎（48）5533

健康で元気な毎日に

冬季に多発！ vol.52 「ヒートショック」注意報！

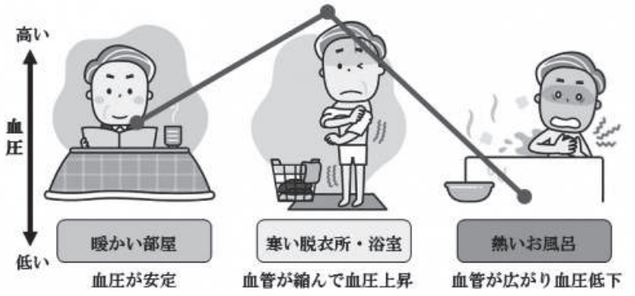
問町民課 保健福祉係 ☎（48）5565

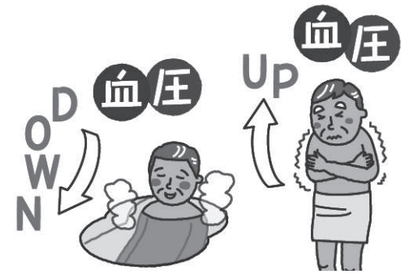
「ヒートショック」とは、急激な環境温度の変化によって、血圧が上下に大きく変動することをきっかけとして起こる、健康被害の総称です。

・ヒートショックが起こりやすいのは入浴時

室温の低い脱衣所では、熱を奪われまいとして血管が縮み、血圧が上がります。お湯につかると血管が広がって、突然血圧が下がります。こういった**温度差による血圧の急激な変動により、失神や心筋梗塞、脳梗塞が起こりやすくなります。**

※健康診断で血圧が高めだった方は要注意！





・こんな人は特にご注意を！

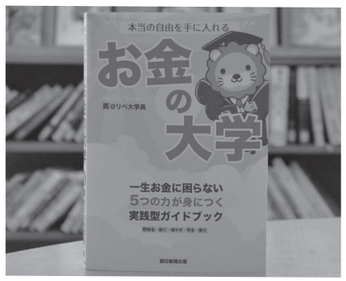
ヒートショックは、**65歳以上の高齢者、高血圧や糖尿病**などの動脈硬化の基盤がある人、**肥満や睡眠時無呼吸症候群、不整脈**の人が影響を受けやすいと言われています。

・ヒートショックを防ぐために

脱衣所やお手洗い、寝室など、気温の低くなりやすい場所に暖房器具を設置し、生活上の温度差を少なくすることが大切です。また入浴時のお湯の温度は低め（38℃～40℃）に設定し長湯をしない、血圧が高いときは入浴を控えるなど、体への負担を少なくする工夫を行いましょう。

町民センター図書コーナー「ゆめぽけっと」から図書のご案内

図書コーナー『ゆめぽけっと』利用時間
㊊～㊎　午前９時～午後９時　㊏㊐㊗　午前９時～午後５時
※年末年始は閉館いたします。問公民館　☎（48）5599



本当の自由を手に入れるお金の大学

両＠リベ大学長：著

貯める・稼ぐ・増やす・守る・使う一生お金に困らない「5つの力」の基本 ◎人生6大固定費の見直し方法◎必要な保険は3つだけ◎マイホームより賃貸をおすすめする理由◎おすすめの副業8選◎初心者でもプロに勝てる資産運用法◎やってはいけない投資すべて実践すれば、日本で上位8.4%のお金持ちに入れちゃう！?自由に生きるためのノウハウがぎっしり！

オルタネート

加藤 シゲアキ：著

高校生限定のマッチングアプリ「オルタネート」が必須のウェブサービスとなった現代。 東京にある円明学園高校で、３人の若者の運命が交錯する。恋とは、友情とは、家族とは。そして、人と“繋がる”とは何か。デジタルな世界と未分化な感情が織りなす物語の果てに、３人を待ち受ける未来とは一体…。「2021年本屋大賞」ノミネート作品。

☆新着本

- 100日後に死ぬワニ　きくち　ゆうき：著
- イニシエーション・ラブ　乾　くるみ：著
- 今度生まれたら　内館　牧子：著
- 繊細さんの本　武田　友紀：著

町史編さん室だより

第61回

野沢街道開修と野沢駅の開通

里道一等野沢街道開修ニ関スル件

里道一等線大沼郡川西村大字名入字高清水県道三等沼田街道ヨリ分岐シ河沼郡野沢村地内県道ニ接続スル道路（凡四里）ハ沿道関係村ニテ車道ノ目的ヲ以テ大開修ヲナシ左ノ方法ヲ以テ三十五年度ニ於テ施行スルコト

一　里道一等線ハ当然郡事業ナルモ緩急必要上村事業トシ開修ノ件ヲ郡長ニ出願スルコト

一　特別寄附ハ道敷潰地ノ割合ニヨリ其大字ニ於テ寄附ヲ受クルコト

一　県補助確定ノ上ハ川西村負担方法特ニ決議スルコト

（明治三十五年三月十四日）

本資料は川西村大字名入字高清水の県道沼田街道から河沼郡野沢村の県道に接続する約四里を車道として大開修する事業が、明治三十五年（一九〇二）四月以降に始まることを示すもので、西方村時代にまとめられた『郷土誌』に書き写されていました。

『郷土誌』によれば、野沢街道の開修は三十五年度以降多大な費用を支出したものの、その効果は空（むな）しいほどであったといいます。大きく事業化したのは明治四十四年（一九一一）のことで、県補助工事工費約三万円を要する大開修に十月から着手したとあり、交通運輸上便利になることで村が発展することが期待されています。大正二年（一九一三）八月に実施された知事による大沼郡巡視の報告書には「川西街道」の名称でこの街道について触れられており、二ヶ年事業で出来上がったと報告され、この開通により大登では米一升が一銭安くなったという話もあるとしています。

野沢街道完成の翌年となる大正二年八月一日には岩越線の野沢駅（野沢町、現西会津町、翌三年には、郡山～新津間開通）が開業しました。

当時、川西村役場の書記で後に村長となる山内政記氏の日記を読むと、鉄道開通以降、若松や福島への出張は野沢から汽車で行くようになったことがうかがえ、令和二年十一月号の「町史編さん室だより」で紹介した浅岐・大谷・大石田の四名による大正十年（一九二一）の伊勢参宮も野沢駅から汽車に乗り旅がはじまります。

また浅岐の若林家に遺（のこ）された大正二年七月十三日付の文書には、野沢駅前の㋮運送店・麻山新蔵氏からの営業案内があり、内国通運株式会社（現日本通運株式会社）と契約し、野沢取引店となったこと、開通日より運送業を開始し、懇切敏速安賃を旨（むね）として物資を取扱うので利用して欲しいと書かれています。他にも大正期に大谷川を利用し、伐採した木材を宮下の「筏組立場（いかだ）」まで流送していた大谷・二瓶保氏の契約相手が野沢製材所であったり、二瓶氏が材木の相場を問い合わせたのが前述の運送店の麻山氏であったりと、経済的なつながりを感じさせます。

その他、明治四十一年（一九〇八）、国を相手取った下戻訴訟（さげもどしそしょう）に勝訴し、官有地となった黒男山百五町歩を私財を投じ西方に取り戻した川西村の小松爲吉氏は、年数を限って黒男山の地上にある立木を自由に利用できる権利を得、その権利を活かしてはじめた製炭によって生じた大量の木炭を黒沢峠まで搬出（はんしゅつ）、そこから荷馬車で野沢駅まで運び、新潟や東京に出荷したといいます。

このように野沢街道の開修、そして野沢駅開業が、西川村外二ヶ村組合村（後の宮下村）、川西村（後の西方村）の交通や流通に大きな影響を与えたことがうかがえます。

※資料の旧字体は新字体に改めています。

三島町史編さん室

ご家庭に古い文書や古い写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。☎（52）2165

地区座談会

地区座談会は11月27日から12月18日にかけて、町内15会場で行われ、合計180人が出席しました。

町からは矢澤町長、各課長などが出席し、第五次三島町振興計画や地区要望事項の取組状況などについて、説明と質疑応答が行われました。その主な内容を報告します。

大登地区で行われた座談会

❶第五次三島町振興計画について

〔質問〕三島町の人口予測は、数十年後には今の半分になってしまう。今後、一町はどうなるのか。合併等は考えているのか。

〔回答〕県内では桧枝岐村が600人規模、国内全体でみれば100人規模で成り立っている自治体もあるので、人口での判断を一概に申し上げるのは難しいです。また、合併はしたいと思ってできるものではないので難しいですが、1つの方法であると考えています。

〔質問〕人口予測は町が実施したものか。

〔回答〕町が実施したものです。人口減少には出生数を増やす、定住人口を増やす等の対策をしていきます。

〔意見〕計画の中に、新規就農者の育成とあるが、農業で収入があがらない状況で、現実的に無理ではないか。また、会津桐は価値が上がっているのか。

〔回答〕会津地鶏やかすみ草などの取り組みを視野に入れて計画を作成しました。会津桐の価値は上がってはいませんが、これから新製品を考案し、付加価値を上げる努力をしていきます。

〔意見〕町づくりの考え方を切り替えることもありではないか。今まで振興計画を作り上げてきたが、何か成果があったか。

〔回答〕その時代に合わせた計画づくりを実施してきましたが、社会変化が計画よりも大きく動いているのが現状です。

〔質問〕振興計画では美坂高原の活用と大林ふるさとの山を活用する内容になっている。美坂高原は町で人やお金をかけて管理しているが、大林は地区任せになっている。町では、大林の活用・保全等をどう考えているのか。

〔回答〕大林ふるさとの山も大きな資源として捉えています。地区と町で話し合うことが第一歩だと考えています。今後話し合いながら、大林と美坂高原の活用を検討していきます。

〔質問〕「結婚・出産・子育てしやすい環境をつくる」とあるが、その成果や状況はどうなっているか。

〔回答〕若者交流事業等も実施していますが、なかなか成果は出ていません。新型コロナウイルスの影響もあり、今年度は事業の実施ができていない状況です。

〔要望〕空き家対策について、所有者と役場のやり取りだけでなく、地区にも情報が欲しい。敷地への無断立ち入りなどトラブルの元になる。

〔回答〕区長さんとも情報共有し、連携していきます。

❷地区要望事項の取組状況について

〔質問〕集会所のエアコン及びトイレの仕切り（男女別）について、修繕の優先順位を教えてほしい。

〔回答〕地区がエアコン設置とトイレ仕切りのどちらを優先するか、また町予算の中で行っていくので、各地区の集会所に係る要望事項から優先順位をつけて検討していきます。

〔質問〕消雪の水が出すぎる所と出ない所がある。ノズルの交換は実施したのか。

〔回答〕交換を実施しました。

代替の交通手段が町営バスとデマンドバスしかなくデマンドバスは定時運行にして欲しい。電話予約は使いづらく、決まった時間に来る方が使いやすい。しかし、空荷で定時運行するのは無駄という意見もある。

〔回答〕デマンドバス運行開始当初から双方の意見があります。現行の予約制にしたのは利用率の低さから無駄を省くためです。それぞれの意見を考慮し、運用していきます。

〔質問〕11月末でふるさと荘が閉鎖されたが、今後の町の方針、計画はどうなっているか。

〔回答〕新たな指定管理者を募集し、町外の業者から問い合わせがありました。ふるさと荘は施設の老朽化が著しく、建替えも検討しています。

〔質問〕柳津町（持寄）にある養豚場からの臭いが最近はしないようだが、業者から何か連絡はあったのか。

〔回答〕消臭フィルターを3重化すると効果があると判明したので、豚舎12棟を全て3重化します。令和3年3月末には完了見込みです。今後も柳津町と連携していきます。

〔質問〕ガソリンスタンドの入り具合はどうか。現在のスタンドは3年間継続し、国道沿いに移転すると聞いた。

〔回答〕集客数については、すぐにはお答えできませんが、オープンから10日間で約23000ℓの給油を行ったと報告を受けています。移転については、委員会を立ち上げて検討していく予定です。

〔意見〕今年の町の総合健診は待ち時間も少なく、やり方が良かった。

〔回答〕新型コロナウイルス対策で、各地区ごとに時間の割り振りを行いました。来年度も引き続き行います。

〔質問〕新たに防災無線が配布されたのはなぜか。テレビ電話で防災無線が入るから必要ないのではないか。

〔回答〕アナログ無線からデジタル無線に変わったことと、前回配布したものが古くなったことから機器の入れ替えを行いました。また、テレビ電話では停電時に防災無線が入らないので、各戸に防災無線機を配布しました。

〔要望〕みしまテレビで議会放映はできないか。

〔回答〕議会と協議のうえ、中継を実施している他町村も参考にしながら実現に向けた検討を進めます。

〔質問〕県立宮下病院建替えの進捗はどうなっているか。

〔回答〕昨年から検討委員会で具体的な話し合いを進めており、建設場所等を公表できる状況になれば、町民の皆様にもお知らせします。

荒屋敷地区で行われた座談会

地区役員の方に管理をお願いしています。酷い箇所は交換対応します。

〔要望〕2年続けて地区内の林道、2路線の舗装を実施してもらった。今年もお願いしたい。

〔回答〕今年度は2路線のうち1路線の急勾配箇所の舗装を実施しました。

〔要望〕今年度は4月に要望を出してから例年より1ヶ月以上も遅れての現地確認となった。回答も今頃になり遅い。役場にはもっと危機感を持って仕事に取り組んでほしい。

〔回答〕今年度は新型コロナウイルス対策や感染予防のため、大変迷惑をおかけしました。来年度は迅速に地区要望に対応します。

❸その他の質問・意見等

〔意見〕ゴミの不法投棄禁止の看板を設置してもらったが、不法投棄がなくならない。防犯カメラの設置の検討もしてきたが、個人を特定するよりは、花を植えるなどの対策をしてはどうかと考えている。

〔回答〕町に「美しい地区づくり町民運動」の補助制度があります。他の地区でも実施していますので、ご相談ください。

〔質問〕今年はイノシシ等の被害が酷かった。有害鳥獣対策についてどの様に取り組んでいるのか。

〔回答〕専門員として地域おこし協力隊を募集し、応募がありましたがコロナウイルスの影響で町に来れず採用できませんでした。来年度に再度募集する予定です。また、電気柵の導入に町の補助を設けており、中山間等の団体で管理する事で、より高額な補助を用意し、電気柵以外の資材導入も補助できるよう来年度から拡充する予定です。

〔質問〕桐生産者の育成について、生産・製造をやめる人が増えている。販路の開拓等についてはどう考えているか。海外展開であれば身近な中国等を考えてはどうか。

〔回答〕県とも相談しており、海外であれば富裕者向けに販路拡大を考えています。

〔意見〕運転免許の返納を考

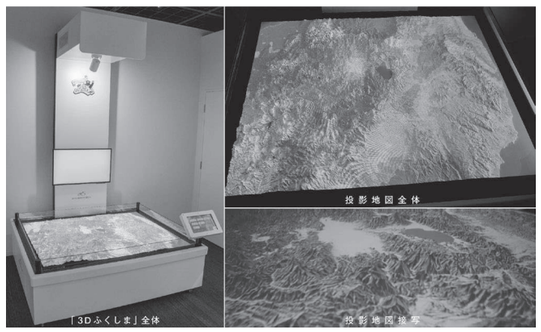
環境研だより　第31回

福島県の環境を映し出すプロジェクションマッピング

三島町のみなさま、こんにちは。今回は研究内容の情報発信についてご紹介したいと思います。環境研では三島町でも広報誌のスペースをお借りしたり、出前講座を開催したりと、研究内容を皆さまにお知らせする機会を設けていますが、より直感的に福島県の環境について知ることができるようにある装置を開発しました。

ご存じの通り、福島県は面積が全国で3番目に広い県で、会津、中通り、浜通りの各地域の環境も大きく違います。この地域ごとの特徴を踏まえて研究データを考察していくと地形が大きく関わっていることがわかり、地形と環境の繋がりを分かりやすくするために開発したのが今回ご紹介する「3D（すりーでぃー）ふくしま」です。

3Dふくしまは、福島県を12万5千分の1の縮尺で再現した大型の立体模型の地図に、県内の人口や経済活動、放射線量の推移、野生動物の生息状況、風力や太陽光等の再生可能エネルギーの資源、地球温暖化の影響などといった、様々な環境に関する研究データを高解像度のアニメーションで映し出し、合わせてモニター映像と音声による解説を行うものです。平面の地図に映し出すだけではわかりづらかった各データと地形との関係が、立体地図によって読み取ることができるようになりました。



例えば、野生動物のクマやイノシシが出現するのはどんな地域か、風力発電や太陽光発電の施設が作られるのはどんな場所に多いのか、などを立体地図上のデータで知ることができ、また東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生の前後で県内の人口がどう推移したのか、福島第一原子力発電所の事故により放出された放射線の分布が現在までにどう変化していったか、というような時間による移り変わりもアニメーションで、より直感的に表示されます。これらの研究データを紹介するコンテンツは小学生でもわかりやすいようにと工夫して作成しておりますので、子どもの学習にも役立つものとなっています。

3Dふくしまのロゴマーク　子どもも楽しめるようにと可愛らしくデザイン

3Dふくしまは一般の方にもご利用いただけるように、三春町にある福島県環境創造センター内の「コミュタン福島」という施設で常時展示しています。

現在までに7つのコンテンツを展示しておりますが、更に増やしていく予定ですので、一度ご覧になった方もぜひまた足を運んでいただければと思います。さらに詳しい内容を知りたい方は3Dふくしま特設サイトをご覧ください。
（https://www.nies.go.jp/fukushima/3D/index.html）

＜筆者紹介＞
常盤　達彦（ときわ　たつひこ）

三春町でも積雪や道路の凍結が多くなっています。先日は前を走る車が横滑りして縁石にぶつかりそうになり肝を冷やしました。みなさまは雪道の運転に慣れているとは思いますが気を付けて運転したいと改めて思いました。

問国立環境研究所福島支部
地域環境創生研究室　☎0247（61）6572

会津坂下警察署からのお知らせ

なりすまし詐欺の被害状況

令和2年中の被害状況（県内）

○被害件数
135件（前年比＋31件）

○被害額
2億2,795万円（前年比＋5,299万円）

○内訳

オレオレ詐欺	10件	2,334万円
預貯金詐欺	28件	3,053万円
架空料金請求詐欺	16件	5,659万円
融資保証金詐欺	2件	47万円
還付金詐欺	16件	2,306万円
キャッシュカード詐欺盗	61件	8,726万円

※警察官や銀行職員などを装って「カードが悪用されている」「カードを新しくする」などと電話をかけてキャッシュカードを準備させ、自宅に訪問してキャッシュカードなどを盗む**キャッシュカード詐欺盗**が増加しています。

問会津坂下警察署 生活安全係☎0242（83）3451

街頭犯罪発生件数（12月31日現在）

区分	管内	三島町
強盗		
空き巣	1	
忍び込み		
事務所荒らし		
出店荒らし		
自動車盗	1	
オートバイ盗		
自転車盗	3	
自販機ねらい	1	
車上ねらい	2	
ひったくり		
街頭犯罪合計	8	0
その他刑法犯等	43	3
全刑法犯	51	3

昨年は、車庫や倉庫からタイヤや工具が盗まれる事件が多く発生しました。車庫や倉庫は必ず施錠してください。施錠できない場合は、施錠できる建物などに保管しましょう。

○その他刑法犯等には、暴行・傷害・万引き・詐欺・器物損壊などの犯罪発生件数が含まれます。※上記発生件数は、令和2年1月1日からの累計数となっています。

消防署からのお知らせ

消防署からのお知らせ

～除雪作業時の注意点～

1. 屋根・はしごからの転落
2. 用水路への転落
3. 除雪機への巻き込み
4. 屋根からの落雪

※除雪をする際は、家族や近所にその旨を伝えてから作業を行ってください。万が一のことがあった場合にすぐ連絡できるよう携帯電話を持って作業しましょう！

消防水利の除雪にご協力いただきありがとうございます

町民の皆様には、日頃より自宅近くの消火栓や防火水槽の除雪にご協力いただき、心より感謝申し上げます。消防署、消防団では、消火栓や防火水槽の除雪を行っていますが、大雪などで作業が遅れる場合があります。消火栓や防火水槽は、火災時に重要な水源となりますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

また、付近への雪寄せや盛り上げ、駐車等は行わないようご協力下さい。

三島 守

問会津坂下消防署　三島出張所
ー火事・救急・救助はー　119番まで
電話（52）3032
FAX（52）3033

県立宮下病院からのお知らせ

栄養士のつぶやき

管理栄養士　小野 知恵

健康維持のためには「主食、主菜、副菜をそろえて3食バランスよく食べる」が基本です。「主菜」とは、肉、魚、卵、大豆製品などたんぱく質を多く含む食品を使った料理のことです。

たんぱく質は筋肉や体をつくる材料になります。その中でも、筋肉を構成する“筋たんぱく質”は、合成と分解を絶えず繰り返していて、食事からたんぱく質を充分に摂取していれば合成が行われ、不足すれば筋たんぱく質の分解が促進し筋肉量が減少します。このことから毎食、食事からたんぱく質を摂取することが大切になります。

宮下病院では「たんぱく質食品の簡単レシピ」を内科外来前に掲示していますので、興味がある方はぜひご覧ください。

福島県の最低賃金が改正されました

県内で働いている全ての労働者とその使用者に適用されます。※特定最低賃金が適用される労働者を除きます。

	最低賃金	効力発生年月日
福島県最低賃金	800円	令和2年10月2日

※特定最低賃金

業　種	最低賃金	効力発生年月日
輸送用機械器具製造業	870円	令和2年12月12日
電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具情報通信機械器具製造業（医療用計測器製造業（心電計製造業を除く）を除く）	834円	令和2年12月17日
非鉄金属製造業	866円	令和2年12月18日
計量器・測定器・分析機器・試験機・測量機械器具・理化学機械器具、時計・同部品、眼鏡製造業	868円	令和2年12月20日
自動車小売業（二輪自動小売業（原動機付自転車を含む）を除く）	868円	令和2年12月24日

○条件により、特定最低賃金が適用されない（地域別最低賃金が適用される）場合があります。

問福島労働局　賃金室　☎024（536）4604

4月開講の職業訓練のご案内

会津訓練センター（ポリテクセンター会津）では、ものづくり分野で早期に再就職を目指す求職者の方々を対象に6ヶ月間の職業訓練を実施するとともに、事業主のご要望にお応えした短期の在職者訓練等を実施しています。

○募集期間　2月18日㈭から3月17日㈬まで
○募集訓練科名　建築CADリノベーションコース（住宅リフォーム技術科）
○募集定員　18名
○訓練期間　4月2日から9月30日までの6ヶ月間
○対象者　公共職業安定所に求職登録されている方で、職業訓練の受講が望ましいと判断された方
○受講料　無料
○選考日　3月19日㈮　午前9時から

問ポリテクセンター会津　訓練課　☎0242（26）0520

自営業の方やその家族、学生などの国民年金の第1号被保険者の皆様へ

・国民年金は、自営業の方やその家族、学生などの国民年金の第1号被保険者の方々がゆとりある老後を過ごせるよう、**国民年金に上乗せする公的な年金制度**です。
・加入できる方は、国民年金に加入している20歳以上60歳未満の方および60歳以上65歳未満の方や海外に居住されている方で国民年金に任意加入している方です。
・65歳から**生涯受け取ることができる終身年金**が基本ですので、長い老後の生活に備えることができます。
・掛金は全額が所得から控除できるので、**所得税と住民税が軽減されます**。受け取る年金も公的年金等控除の対象になりますので、税制面で優遇されます。
・万が一早期に亡くなったとき、家族に遺族一時金が支払われますので、掛け捨てになりません。（一部の年金タイプを除く）遺族一時金は全額非課税です。※2020年1月現在
・加入したときに確定した掛金額と年金額は変わりません。（ご加入時の内容でお支払いした場合）
・ご加入いただいた後も掛金の額を口数単位で増減できます。

○国民年金基金についてのお問合せ
全国国民年金基金　福島支部
☎0120（65）4192

令和2年分確定申告書作成会場開設のお知らせ

○開設場所　**アピオスペース1階**
（会津若松市インター西90番地）
○開設期間　**2月1日㈪～3月15日㈪**
（土・日・祝日を除く）
○開設時間　**午前9時15分～午後4時**

※会場の混雑緩和のため、入場には「**入場整理券**」が必要です。「入場整理券」は会場での当日配布とLINEによる事前発行となりますが、配布状況に応じて後日の来場をお願いすることもあります。配布方法の詳細は、別途国税庁のホームページ等によりお知らせします。
※アピオスペースでの開設期間中、税務署には申告書作成会場を設置しておりませんので、アピオスペースにお越しください。
※新型コロナウイルス感染症対策の一環として令和2年分の確定申告では、公的年金を受給されている方を主な対象として、2月16日㈫よりも前から申告相談をお受けします。

問会津若松税務署　☎0242（27）4311

社会福祉協議会からのお知らせ

2月に開催予定の各地区サロンについては、今後の新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、開催の有無を決定し、改めてお知らせします。皆様のご理解をお願いします。

問社会福祉協議会　☎（52）3344

ご寄付ありがとうございました

町社会福祉協議会へのご寄付
ご遺志によるもの

阿部政敏様（桧原）

お悔み申し上げます

阿部チヨ子（93歳・桧原）
（1月届出：敬称略）

※『広報みしま掲載同意書』をご提出いただいた方のみを掲載しています。

問特命担当課　☎（48）5232

2月の納税【納期限　3月1日㈪】

▼町県民税（随期）
▼固定資産税（第4期）
▼国民健康保険税（第6期）
▼介護保険料【普通徴収】（第6期）
▼後期高齢者保険料【普通徴収】（第7期）

忘れずにお納めください

問町民課　町民係　☎（48）5555

町の人口と世帯

1月1日現在

人口	1,528	−5	出生	0
男	759	−3	死亡	2
女	769	−2	転入	0
世帯	742	−1	転出	3

㊟住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

『撮』っておきのみしま町フォトコンテスト
作品を展示中です

交流センター山びこでは、第10回『撮』っておきのみしま町フォトコンテストの作品を展示中です。町内外から応募された、三島町に関する写真96点を展示しています。来場者による投票で決定する「特別賞」の受付も行っていますので、お誘いあわせのうえ、ぜひご来場ください。

○作品展示期間・来場者投票受付期間
2月21日㊐まで
○開館時間　午前9時から午後5時（最終入館 午後4時30分）
○休 館 日　月曜日（月曜が祝日の場合は火曜日）

○そ の 他　来場される際は以下の点にご協力をお願いします
・必ずマスクの着用をお願いします
・入口での手指の消毒をお願いします
・来場者が多数の場合は入場を制限する場合があります

三島町交流センター山びこ
〒969-7402　福島県大沼郡三島町大字名入字諏訪ノ上418
☎0241（52）2165　Fax0241（52）2166

町長日記 ～歴史継承と循環型社会～ No.64

私が宮下保育所の児童だった頃だと思います。今から64年前になりますが、会津若松市七日町の三原時計店の吉田さんという時計職人の方が、私の家に月1回訪問し、時計の修理を茶の間でしていた記憶があります。おそらく高清水集落は勿論ですが、他の集落からも時計を携えて4人程のお客様が来ていたような記憶があります。特別なメガネをかけ、細かい作業と時計のボンボンとなる音が今でも脳裏を離れる事はありません。今でも修理されないまま「古時計」が数点ありますが捨てる事が出来ない、家の宝物です。

父が亡くなり、13年ぶりに蔵を掃除した際、父や私、そして娘の使ったおもちゃや木馬等も見つかりました。祖父が修理したマタタビざるもあり、祝い善や古い瀬戸物がほこりを被っていましたが、私にとっては宝の蔵でありました。理由は簡単です。家の歴史を学ぶ事が出来たからであります。

また、冒頭に記載した時計店の話ですが、巻きタオルもあり、そのタオルには「高清水銀座公園・矢澤時計店」と記載がありました。紙でボロボロになったウォルサムと書かれた時計の広告版も見つかりました。今では価値のないものですが、矢澤家の宝物として次の世代に継承していきたいと考えています。

かつての山村も、いや日本全体が「循環型社会」だったことが理解できます。日常生活を支える人が家族内や地域内に住み、山村の生活を豊かにしていたことが蔵の中から感じる事ができました。三島町のどの家も同様で、日常生活に必要な物は丁寧に修理しながら、何代にも渡ってそれぞれの「家風」を創ってきたと考えています。これらの考えの総和が、集落共同体の理念として虫送りやサイノカミ、ひな流し等の年中行事が残っているのだと思います。山村の生活は、各集落に再生のプロがいて、最後まで使い切るリサイクルの循環ができていたと考えられます。

しかし時代の変化とともに、特に高度経済成長期から日常の生活習慣が薄れ、大量生産・大量消費の時代が来ると、山村地域は人の移動から始まり、その後に土地の荒廃、そして集落の維持機能の喪失という時代の到来で現在に至っているのは、ご承知のとおりです。

地球の限りある資源を有効に、且つ循環しながら使う事で、持続ある社会を創る事が共有されるであろうという矢先に、新型コロナウイルス感染症が世界に拡大し、従来の成長という果実を配分する価値を変えて行く必要に迫られています。そのための国の形として集中型社会から分散連携型社会を創る事が必要と考える今日この頃です。

三島町長　矢澤　源成

広報みしま2月号（第336号）
令和3年2月5日発行（毎月第1金曜日発行）
■発行　三島町　■編集　三島町役場　特命担当課
〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350　☎0241（48）5232
■ホームページ　http://www.town.mishima.fukushima.jp
■印刷　北日本印刷株式会社